

評議会委員の評価一覧表

		①千代田ゲートウェイ		②ビジネスを発想するセカンドオフィス		③区民の書齋	
	評価	自由記述	評価	自由記述	評価	自由記述	
A委員	b	新型コロナウイルス感染拡大に伴う制約の大きい状況下のなかにあっても、各項目の実績が極端に下がっているわけではない。それは、図書館側の工夫や努力の成果であると考えます。	b	新型コロナウイルスの感染拡大に伴う制限等により、全体的に前年度を下回っているのは仕方ないといえる。そのなかで、日比谷図書文化館における「ビジネス関連資料の満足度」と「日比谷カレッジの満足度」が前年度を上回っていることは注目に値する。利用に制限等のある環境下にあっても満足度が向上した要因を分析することで、今後のさらなる満足度向上につなげることも可能と思われる。	a	新型コロナウイルスの感染拡大に伴う制約の大きい状況下では、前年度の実績を下回る項目が多いことは仕方のないことである。一方で、前年度を上回る項目も少なくなく、図書館側の工夫や努力が大きかったものと思われる。また、郵送貸出件数や千代田Web図書館貸出件数の大幅な伸びは、区民の非来館サービスへのニーズの高まりをうまく掴むことができた成果であるといえるが、こうしたニーズをコロナ収束後も区民に持ち続けてもらい、来館・非来館のハイブリッドな利用につなげていくような働きかけ等にも今後取り組んでいってほしい。	
B委員	b	コロナ禍において不特定多数対象の対面サービスを行うことは、大変な現場対応力が求められるものと思います。まずはその点を高く評価させていただきたいと存じます。 ●今後ともさらに、ブログ、SNS等の使い分けを駆使して、来館者・登録者・個別講座会員等とのコミュニケーションの密度をあげていってほしいと思います。 ●そこで一つの提案ですが、図書館としてのメンバーシップ制のようなものを新設することはいかがでしょうか。メンバーになれば常時図書館から発信する情報をSNSで入手できる、というものです。図書館サイドからのアクティブな発信、必要あるいは欲しい人には情報が得やすいようにするのが狙いです。他にも独自のメリットを考えることは可能かと思えます。	b	●先日の会議においても質問しましたが、現状では座席定員数が変動するという点です。その変動した定員数を分母として利用率を見ていくのが妥当ではないでしょうか。	b	●web図書館に関しては、「千代田区の先進的取り組み」として、さらに強化推進していくべきだと思いますがいかがでしょうか。すでに大学図書館との連携がなされようとしているのを伺い、非常に価値ある事だと思いました。さらに、海外の先進事例を研究することも検討されてはいかがでしょうか。そして「千代田区として」特別な予算付けをすることも必要ではないでしょうか。	
C委員	b	様々なメディアを活用しての情報発信量に関して、他公共図書館に比べて大変多く感じます。また、実際に図書館の利用をしてみても、コロナ対策における徹底度合として、最高水準にあると感じます。緊急事態宣言による、外出自粛の流れの中で、図書館は区民の拠り所となっていると思います。感染症対策を継続しながら、開館日数を維持していただきたいと考えます。	b	オフィス人口の多い千代田区ではあるが、20時を過ぎたら帰宅が前提となるような世の中になりつつあります。短い時間の中でも、利用者が満足度を高められるよう、データベースの適正化やビジネス関連資料の更なる整備を続けて頂きたいとおもいます。	b	コロナ禍における閲覧席の制限において、定員数の制限はあるのでしょうか？ 机やイスの配置を検討することで、現状の定員数を増やすなどの対応ができれば良いかと考えます。外出できずに家の中で読書・仕事をするためのニーズが上がったものの、一度訪問してみても、席が一つも空いていない状況を見ると、利用の促進にブレーキをかけてしまう要因の一つになるのではないのでしょうか。入館時に検温や手指消毒、入館票の記入などは、面倒な手続きであると思いません。現在は、どこに行ってもそのような対応を普通にお願ひされます。入館の煩わしさではなく、静かにゆっくり過ごせる環境(適度に距離が取れる環境にある適度な席数)が大切かと考えます。	
D委員	b	1)コロナ禍で企画減少にともない情報発信が減少したのは、仕方のないことですが、千代田での取材対応件数が増えたことは、良かったと思います。ちよびたブログのアクセス数は、更新回数に比例していると感じます。 2)ほぼ、目標を達成できています。 3)ほぼ、目標を達成できています。 4)コロナ禍の状況を考えると、出来る範囲内で最大限の活動が行えたのではないかと感じます。 5)コロナ禍にもかかわらず、千代田の連携が100%は、評価できます。	b	1)千代田の満足度は微減ですが、日比谷が増加しているのが、とても良かったです。何か、工夫があったのでしょうか？ 2)カレッジ企画数、参加者の減少は、仕方ないと思いますが、満足度が向上されており、企画内容の充実がうかがえます。 3)データベースの利用満足度が、千代田、日比谷ともに80%超えを維持できているのは、良いです。ここまで来れたので、次は千代田のデータベースの満足度を何とか90%台に持っていきたいところです。 4)閲覧席の利用は、利用制限されている中で数値なので、十分に利用されていると思います。 5)今後の運営方針の課題となってきます。利用状況の詳細が知りたいところです。	b	1)在住の方の落ち込みとは比較にならないほど、在学、在勤の方の貸し出しが減少しているのは、分析の通りだと感じます。そのような状況下でも、利用者満足度が90%を超えているのは、職員の方々の丁寧な対応があったからだと思います。 2)展示回数が目標通りに行われたことは、評価できます。満足度についても、座席数の問題ということが分析できているのであれば、問題ないと思います。 3)今回の千代田でのレファレンスの利用のされかたから、通常の利用者のニーズを把握できたかと推察されます。 4)郵送貸出件数が4倍以上になっており、ニーズの高さがうかがえます。 5)千代田Web図書館の貸出件数が2.5倍になり、全国からも注目されているとのこと。蔵書タイトル数と同時に選書も充実させて、利用者満足度の向上に繋げて欲しいと思います。	
E委員	b	コロナという状況下において、ほぼ可能な限りにおいて、対応できたのではないかと感じます。特にメルマガなどは、前年度を大きく上回っており、情報の発信という点では、十分だったのではないかと感じます。今後、さらにこういう状況が続くこともふまえて、できることを考えていく必要があるだろう。	b	稼働率においては不可抗力というほかに、止むを得ません。満足度は高い数字を出しており、現状で特に問題はないと思えます。	b	このような中での図書館本来の業務は困難だったと思います。大学図書館においても郵送などで知恵を借りて活動されていると聞きます。経費面でも許容範囲ということだったので、当面は続くと思います。Web図書館の利用も多いので、当面はこれくらいではと考えます。	
F委員	a	千代田の「知」を支える施設としての役割を十分に果たしていると思えます。ご時世的に、不自由な環境にある中、知恵を絞った運営を遂行して欲しいです。	b	コロナ禍での、区民のセカンドオフィスとしての需要意識は高まったのではないかと感じます。そんな中、千代田・日比谷ともに、人数制限設定はあっても、開館に向けた努力をした結果、多くの利用者を迎えることができたと思えます。	a	区民の書庫としての役割を一定程度果たしている事を、数値が表していると思えます。今年度後半も、感染問題は継続が見込まれますが、利用者が使いやすいパブリックスペースであり続けて欲しいと思えます。	
G委員	b	・コロナ禍により、昨年度と比較すると件数的には低下しているため、この点だけを見ると評価としては前年度を下回る。しかし、そのような中でも、コロナ禍での図書館としてできることを発信していた点については、評価できる。また、コロナ禍において、他のどの図書館よりも早く限定的な利用体制を構築し、区立図書館として意思決定を迅速に行い、プレスリリースを出す等して利用者へアピールし運用を開始できた点は、大いに評価したい。コロナ禍で手探りで開館方法を模索している中、千代田区図書館の利用方法が他の図書館の見本となったと思う。よって、量より質を評価したい。またプレスリリース等によるパブリシティの数を評価とするのも良いと思う。区内関係施設については、日比谷カレッジ等のビジネス関連への取り組みへも重きをおかれているので、経団連や日経新聞社等との連携した取り組みも面白いのではないのでしょうか。	c	・コロナ禍により、昨年度と比較すると件数的には低下しているため、この点だけを見ると評価としては前年度を下回る。ビジネスに関する利用については、在宅勤務が多くなったことに伴い、直接図書館へ赴いて利用することが減ることは止むを得ない。しかし、在宅勤務者を意識し、「ビジネス書の書評サイト」を活用する等工夫がみられる。一方、キャレル等の利用については、在宅勤務と言いつつ図書館でPC等を使えるスペースを求めてくる者も多しと聞いている。そのようなニーズについて検討しても良いかと思う。また、データベースの利用についても、オンラインにて利用登録申請等により、利用者自らが利用できるような仕組みづくりを期待したい。データベースの講習会については、動画を作成しHP上で公開する等、日時を決めて実施するものと並行すると良いと思う。日比谷図書館における新聞・雑誌利用の停滞については、コロナ禍においては図書館を運営する側からすると止むを得ないと思えます。	b	・コロナ禍においても、利用者満足度は高く利用登録率を着実に増やしてきている。Web図書館利用が爆発的に増えており、収束したとしても今後もWeb図書館利用は往來型と比較して多くなる見込みのため、電子資料による蔵書構築等、今後の利用のあり方を検討すべきである。レファレンスについては、オンラインレファレンスやAIチャット等を取り入れる等運用を工夫する必要もある。郵送貸出の利用増はやむを得ないサービスであったことから、非常事態時に対応できる礎を築くことができた点は評価したい。今後も片やナクスの利用が伸びない点については、コロナ禍でも昨年度とほとんど変わらないところは問題である。従来通り課題としてとらえている広報的なところなのか、利用者のニーズに即しているのか、ネットによる音源の公開やサブスクリプションによる利用が多くなっている点に鑑みて再検証すべきである。	
H委員	b	誰にも予想できない(誰も経験したことがない)状況下の中での広報活動やセミナー・イベント・展示等の開催には多大な苦勞があったことと思います。特に大きな問題も生じず運営できたことは大いに評価したいと考えています。前年の実績と単純な比較は難しいですが、指定管理者による自己評価にもありますように、実施可能な範囲で活動できていたと考えられます。 今後に向けて、情報発信の方法についてあらためて整理するとよいと思えます。現在、情報発信の方法として、ブログやFacebook、Twitter、メールマガジンがあり、例えば日比谷ではカレッジの関係で気軽に情報発信できるFacebookやTwitterが多く利用されているというように、それぞれの館の実情に合わせて発信されているとうかがいました。それぞれの発信方法の特徴を理解し、利用者のことを考えた結果であると認識しています。ペーユーザーであれば自分で発信方法の傾向に気が付いて効率よく情報収集できるかもしれません。一方、多くの利用者が同じように情報収集できているかどうかは疑問です。発信方法の統一とまではいかないまでも、効果的な情報収集の方法を示してあげるのも一つの方法ではないかと考えています。	b	テレワークの推奨などでそもそも来館する機会が減少した、来館しようと思っても座席数の制限等で利用を躊躇した利用者も多数いたと思います。そのような状況の中でも、ビジネス関連資料の満足度(利用者アンケート結果)が前年度より増加したことは評価したいと思えます。今後どういうスタンスで各指標について考えていくに期待をしています。例えば、日比谷カレッジについて、オンラインだからできること、オンラインだからこそ参加しようと考えている方もいるのではないのでしょうか。	b	コロナ禍の状況において、千代田Web図書館の貸出件数が増えるだろうと予想していたものの、倍増とまでは予想できなかった。課題は多いものの、公共図書館としてWeb図書館を最初に導入した図書館であることを意識しつつ、さらなるサービスの充実にも期待しています。	

評議会委員の評価一覧表

		④クリエイティブする書庫		⑤ファミリーフィールド		⑥管理運営等	
	評価	自由記述	評価	自由記述	評価	自由記述	
A委員	b	新型コロナウイルス感染拡大に伴う制約の大きい状況下のなかであっても、各項目の実績が極端に下がっているわけではない。それは、図書館側の工夫や努力の成果であると考えます。	b	新型コロナウイルスの感染拡大に伴う制約の大きい状況下にあっても、前年度の実績を上回る項目もあり、図書館側の工夫や努力の成果といえる。子ども読書調査における「不読率」が前年度を上回っている要因については、図書館側の分析の通り、デジタル化の影響は大きいと考えられる。加えて、学校の休校や図書館の休館の時期があったことも影響していると思われる。デジタル化の影響をマイナス面のみで捉えるのではなく、学校における「GiGAスクール」推進の動きなども連携を図りながら、千代田Web図書館の利用など、電子書籍を活用した読書推進にうまくつなげていけるとよいのではないかと考える。	b	新型コロナウイルスの感染拡大という、いままで経験したことない事態に対して、図書館としては試行錯誤しながら的確に対応して管理運営にあたってきたと思います。まだコロナ禍は続きますので、それへの対応も続きますが、コロナ収束後も新たな感染症等の危機がいつ生じるかわかりません。そうした事態にも今回の対応が生かせるように、図書館内部でコロナ禍への対応の経過等をしっかり記録に残して、共有しておいてほしいと思います。それが利用者への安心感につながります。	
B委員	b	●日比谷の特別展企画は毎回そのクオリティの高さに満足しています。日比谷の評価アップは千代田区の評価につながると思います。現状の路線で今後とも取り組んでいただきたことを期待します。コロナ禍がいつまで続くかわかりませんが、自粛生活が続くなかで日比谷の特別展は「知的好奇心&近場の散歩」という趣旨にぴったりだと思います。	b	●児童資料図書の貸出数が高い数字を維持していることは心強く思いました。コロナ禍における特徴であれば、さらに積極的に推進することは可能でしょうか。「自宅で過ごす一冊を読む」という生活スタイルを提案することが、今後の読書好きにつながるように思います。子供向け読書キャンペーン、昔からある企画ですが、なにかゲーム性を取り入れるのもアイデアかもと思いました。	b	●自己評価に書かれたコメントにまったく同意です。現場のモチベーションを維持向上していくのが、現下における重要事項だと理解しています。従業員満足度(ES)をしっかりと保つマネジメントをお願いいたします。	
C委員	b	各図書館によって、大きな数値の差異が生じている良事例を各図書で共有していくことが、今後のデジタル化に対応していく上で重要なことだと考えます。管理運営に係る事柄もありませんが、リモートにおけるセミナーでの成功事例や失敗事例について、関係館内でどのように共有しているかという指標も必要になってくると思われます。	b	コロナ禍において児童資料の貸出数・満足度が高い実績となったのは、大変な成果であると考えます。電子書籍については、各学校でも電子教科書が推進されたりと、子ども達の認知は進んでいます。今後のアンケートでも、電子書籍の需要について関係関係の確認は必要かと思えます。学校支援司書にも、是非、児童・生徒に配布している一人一台タブレットの活用を含めた、読書活動の推進に取り組んで頂きたいと思えます。	b	新規登録者数が前年比で50%を超えたこと、職員対応満足度が高水準を維持していることは、コロナ禍においても情報発信を続けた結果として評価できるとおもいます。コロナの感染状況が高まる中、平常に戻る事を想定しての対応ではなく、図書館のあらたな形を試行錯誤することがもたらされてきていると感じます。飲食スペース(カフェやショップ)などを、別の有効活用(たとえば、図書の閲覧スペースとして活用していったり、オンライン講座等の撮影スペースとしたりなど)できないかなど、新たな事業への取組に期待します。	
D委員	b	1)この状況のなか、研究会を2回、開催出来たことは良かったことです。 2)モーニングセミナーは、オンラインを活用するなど、色々としており、この経験が次に繋がると考えます。2時間の利用制限は、「区民の書齋」としてのあり方と、どのように折り合いをつけていくのか、議論が必要なタイミングと考えます。 3)特別展満足度、特別展示関連講座満足度、ともに高い水準を維持し昨年度を上回っている点は、とても評価できます。 4)展示回数が、ほぼ予定通りに実施できたことは、良かったことです。蔵書回転率も、高い水準を維持できており、良と思います。	b	1)児童資料満足度が、他のサービスに比べて90%を超えていないのが残念です。何か理由があるのでしょうか、分析をしていただければと思います。 2)休館による展示回数の減少は、仕方のないことだと思います。 3)三密回避のために参加者数が減少するのは仕方のないことだと思いますので、サービスレベルを維持するためにも、開催回数を増やせる工夫をすることが必要かと思えます。 4)数値が増加しているのが気になりますので、アンケートの設問設定の仕方なども工夫が必要かと思えます。 5)実施回数は減少しているものの、相談の受付回数が増加していることから、十分に役割を果たせていると考えられます。	b	1)この状況下で、新規登録者数が12000人以上いたことは、大きな実績となると思います。 2)昨年度に引き続き、対応満足度が高水準で推移しているのは、とても素晴らしいことだと思います。ぜひ、この水準を維持して欲しいと思います。 3)感染症対策も、しっかり行っていたと感じます。 4)数値の減少は、仕方ないと思います。 5)このような状況下であっても、訓練が予定通り行われたことは、とても良いことでした。また、実習生の受け入れも予定通り行えたことも、良かったです。	
E委員	b	この状況下で日比谷で特別展が開催されており、集客実績の点でも十分評価できると思う。毎回きにかけているが魅力的な展示だと思います。	b	おはなし会自体はなかなか困難な状況だと思えますが、児童の読書欲求には十分満足できたのではないかと考えます。街を歩いていると千代田図書館のロゴのトートバッグを持った児童をよく見かけますが、中高生のいわゆるヤングアダルト向けの読書活動は課題かもしれません。	b	こちらに関しては十分な対応がなされていると思います。可能な範囲で対応がなされていると感じました。	
F委員	b	研究の発表やコレクションの展示などは、計画通りに進めず辛い状況下ですが、条件の許す限り開催できたと思えますし、コロナ対策もしっかりできた事が幸いです。	b	活動制限の多い1年だったと思えますが、一定の成果が出ていると思えます。翌期の計画も、慎重に進めていただきたいです。	b	有事の運営大変お疲れ様です。運営の体力・気力を失わず、平時に戻ることに過剰に期待しないで、現在の数値を受け止めつつ目標値を上げていって欲しいです。	
G委員	c	・コロナ禍により、昨年度と比較すると件数的には低下しているため、この点だけを見ると評価としては前年度を下回る。千代田コレクション研究については、早急に今後のありかたについて検討するレベルかと思えます。展示については、好評を博していることから、今までと同様に図書館にて実施することと、別途電子展示でできる内容のものを実施することも検討しても良いかと思えます。また、モーニングセミナーのリポートによる開催を実施した点や、今後セミナーの動画アーカイブ化も検討されている点については、HPコンテンツの充実を図ることができ、利用者の利便性に鑑みて評価できると思えます。	c	・コロナ禍により、昨年度と比較すると件数的には低下しているため、この点だけを見ると評価としては前年度を下回る。読書調査の不読率が上がっている点については、デジタル化やコロナ禍の影響が大であることは否めないが、図書館としてはこの不読率を少しでも上げていく努力はしなければならない。読み聞かせやお話し会については、このコロナ禍での実施はなかなか難しいため、著作権を侵害しない範囲内で動画等のコンテンツを作成し公開する等の工夫があっても良いかと思えます。また、読み聞かせやお話し会において、多言語によるものも開催すると良いと思えます。	b	・コロナ禍により、昨年度と比較すると件数的には低下しているため、この点だけを見ると評価としては前年度を下回る。コロナ禍における入館者の向上は見込めないため、当然であり止むを得ない数値である。「1 千代田ゲートウェイ」でも記載はしたが、コロナ禍において、他のどの図書館よりも早く限定的な利用体制を構築し、区立図書館として意思決定を迅速に行い、プレスリリースを出す等して利用者へアピールし運用を開始できた点は、大いに評価する。コロナ禍で手探りで開館方法を模索している中、千代田区図書館の利用方法が他の図書館の見本となった点も評価できると思う。昨年度も記載しましたが、今後はLGBTQや外国人に対する、ハードおよびソフトウェアの面での整備が課題であり、この点の指標を設定すべきである。また、カスタマーハラスメントへの対応策や苦情件数・苦情対応件数は設定しておいても良いと思う。また、日比谷図書文化会館へ同った際、公共施設から入館時の対応が一人ひとり懇切丁寧に行われていた。評価はしますが、個人的には過剰のような気がした。	
H委員	b	コロナ禍の影響を受け、さまざまな活動が停滞せざるを得なかったと思えます。モーニングセミナーの開催方法や特別研究室の利用状況に関する課題を今後少しずつ考えていっていただきたと思います。例えば、特別研究室の入出館者が減少したのは「コロナ禍が原因であるか」それとも「コロナ禍以前にあった問題がコロナ禍によって顕在化した」からであるのかというように、いろいろと検討できる気がします。	b	コロナ禍の中で、児童に対する各種サービスが可能な範囲で実施できたことは大いに評価したいと思います。そのための準備など、通常業務に加えて大きな負担があったと推察します。児童サービスの充実が本人だけでなく、図書館にとっても利用者の確保(言い方が悪く申し訳ありません)につながります。これからの動向を楽しみに見ていきたいと思えます。	b	コロナ禍の状況で前年の実績と比べて評価を行うことは難しいと思えます。運営がかかわったすべての方に敬意を表します。こうした状況になったことで、今まで気がつかなかったことに気がついたり、これまでの取り組みを見直したり、新たなアイデアが生まれたりといったこともあるのではないのでしょうか。平常時に戻ったときにこれまでよりもパワーアップした形になっていることを心から期待しています。	